

よかところ通信



2006年10月号

オーツーフーム 大津励志+耕太&愛梨
〒869-1501 熊本県阿蘇郡南阿蘇村両併 589
Tel&Fax : 0967-62-3730
E-mail: o2farm@aso.ne.jp
O2FarmWeb : www.aso.ne.jp/reisi
バックナンバー閲覧ID: o2farm, PASS: yokatoko

トピックス

● ようやく稲刈りも終わりに近づきました

- 稲は無駄なく全部使います。
- さむーい冬が来る前に...

秋晴れが気持ちいい季節です。阿蘇では薄の穂が開き始め、景色がすっかり秋になってきました。



9月から毎日のように稲刈り三昧だった励志&耕太コンビ。作業もそろそろ終わりが見えてきました。コンバインで小気味良く黄金色の稲を刈り取っていく姿は遠目にはのどかに見えますが、騒音と土埃が激しく、毎日同じ作業でもあるので飽きてもくるようです。しかも請負作業の場合、気も使います。

稲刈りは雨だとできません。稲穂が湿っていると機械にくっついてしまうからです。秋晴れもいいけど、たまには降ってよ！というのが本音のようです。

さて、稲刈りが終ると同時に、牛のエサ用にワラを集める作業が始まります。ワラが湿っていると保存がきかないので、しっかり乾燥させます。雨に当たらずに乾いたワラはいい香りがして、食べたくなる牛の気持ちも分かるような気がします！ちなみに寄せ集めて湿った状態を保つと発酵が始まり、数ヶ月してワラが分解すると上質の堆肥になります。牛糞を混ぜると発酵が早まりますが、ワラだけでつくる堆肥は繊維質が多く、土がフワフワになるのです。



乾燥した後にモミの皮(籾殻)を外す作業を「籾摺り(もみすり)」といい、この作業が終わると玄米になります。これを30kg入りの丈夫な紙袋に入れて、生産者がわかるようにして、農協の倉庫に保管します。倉庫から必要な分だけを毎月取り出し、精米して、皆様にお届けしている、というわけです。籾摺りの後に残る籾殻(もみがら)は、牛舎の床に敷きます。それを発酵させたものが我が家の堆肥となり、来春、我が家の田んぼに撒きます。こうしてイネは実も藁も皮も無駄なく全て使われ、循環しているのです。

稲刈りと藁集めが終ると、あとは機械の手入れや田んぼ、キュウリ畑の片付けなど。さらに牧草の種を霜が降りる前に撒きます。それらが終ると、ぼちぼち農閑期に入ります。高冷地の阿蘇にさむーい冬が来るまであと少し。古い家で、薪ストーブや薪ボイラーを使っている我が家では、煙突掃除や隙間ふさぎなどの冬支度を慌ててしなければなりません。この冬割る薪は来年用に。スローライフは「手間暮らし」と訳すのがいいのかもしれないね。

さて、これから急に日が短くなって肌寒くなりますが、皆様体調を崩されたりされませんよう。どうぞお元気で！